

町に根づく次世代の担い手 ～期待の若手農業者～



全国的に農業後継者が減少しているなか、色麻町では若手農業者がしている。

牛の肥育農家で28頭を飼育する高橋司さん（32）は、「地域や農業関係者との繋がりが持てたことが大きな収穫であり、継続出来る力となっている」と話す。

水稲約7haを経営し、農薬不使用栽培にも取り組む浦山登一郎さん（29）は、今年から小麦栽培にも取り組む。現在の世界情勢を見据えた判断で、両親が経営するレストランに提供する予定だ。

周囲では浦山さんの小麦栽培が軌道に乗り、町内の農家に普及することに期待を寄せる。

夫婦で花き栽培を営む齋條隆志さん（43）・由佳さん（41）は、花き栽培の魅力について「色鮮やかに育った花を収穫する時、幸福感と充実感に包まれる」と話す。

色麻町農業委員会の堀籠勝恵会長（68）は、「次世代の担い手たちが、地域の農業に新しい風を吹かせてくれることを期待している。集落組織がしっかりしている我が町だからこそ農業後継者が育っている。農業委員会としてもバックアップしていきたい」とエールを送っている。